

Slovenia Monthly September 2021

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2021年10月15日



～9月の主なポイント～

内 政： 中道左派政党の選挙後強力に関する署名
外 政： 第16回ブレッド戦略フォーラムの開催
経 済： スロベニアの成長予測が大幅に上方修正
コロナ： J&J社製新型コロナワクチンの使用を中止
スポーツ： 東京2020パラリンピック大会スロベニア結果
ログリッチ選手、ブエルタレースで3度目の優勝

政治

【内政】

●最高裁は政府のSTAへの支払いは義務であると判断【6日、7日】

スロベニア最高裁は、政府のスロベニア通信(STA)に対する対応を許容する行政裁判所の決定を覆し、政府はSTAに対する支払い義務を負うと判断した。STAは本決定を重要な出来事であるとして歓迎した。なお、欧州委員会はスロベニア当局に、STAという公共サービスの独立性と適切な資金を確保するよう求めている。

7日、パホル大統領はSTAと政府コミュニケーションオフィス(UKOM)の幹部による問題解決のための協議を主催した。STAとUKOMは、STAへの資金支払いの基となる年間契約署名のための協議を再開することに合意した。

●ディカウッチ法務大臣の脱税疑惑【6日】

ニュースウェブポータル24urは、ディカウッチ法務大臣は前職の関係で脱税の疑いがあり、2020年8月以来、検察は裁判所による正式な調査開始を待っていると報じた。同大臣は疑惑を一切否定しているが、「BGA」社と「Prevozi Žižek」社の管財人としての

脱税と文書改ざんの罪に問われている。同大臣は、全ての文書を警察に提出済みであり、2019年に裁判所の審理において「文書への私の署名は明らかに改ざんされていたので、筆跡学者に署名の信憑性を検証するよう裁判所に提案した」と説明した。

●法務大臣及び教育大臣に対する不信任動議【7日】

野党4党(LMS、SD、Left、SAB)はディカウッチ法務大臣及びクステツ教育大臣に対する不信任動議を提出した。ディカウッチ大臣に対して、スロベニアからの欧州委任検察官が任命されていないことで、クステツ大臣については、パンデミックの新しい波に備えて学校を準備することに失敗したとして非難している。ディカウッチ大臣は、この動きを「政治の不可避な部分」であり、「連立協定の公約に基づいて法務省がどう取り組んでいるのかを示す」機会になると述べた。クステツ大臣は、国会での審議の過程で申し立てに対応すると述べた。

●侮辱的振る舞いに対する罰金についての法律改正案は可決されず【22日】

国民議会は、侮辱的振る舞いが警察によって確認された場合(被害者からの訴えがなくても)罰金支払いを命じることができるとする法律改正案について、

43票対44票で否決した。元々の治安維持法の改正案は、政府幹部及びその家族に侮辱的振る舞いを行った場合に500～1000ユーロの罰金を導入するというものであったが、世論の強い反発によって、侮辱的振る舞いの対象が全ての人に広げられていた。中道左派野党は、本改正案は政権への批判を沈静化させるものであるとし、与党は街中の暴力を防ぐためのものであるとしていた。

●中道左派政党の選挙後協力に関する署名【28日】

LMŠ(マリヤン・シャレツ・リスト)、SD(社会民主党)、Left(左派)及びSAB(アレンカ・ブラトゥシェク同盟)は(来年の総)選挙後、一緒に政府を作ることを約束する選挙後協力のための署名を行った。選挙戦自体は各党が別々に行う予定。また、4党全てが同意すれば、4党以外の党を連立与党に招き入れることを可としている。各党党首は、署名の目的は、現在の政権とは異なることをする政権を立ち上げることでありと述べている。

●国民議会、2031年までに20億ユーロの医療支出を可決【29日】

国民議会は、今後10年間でスロベニアの医療システムに約20億ユーロの支出を確保するための法案を、賛成68票、反対2票で可決した。この措置は、「2031年にも医療が公的で、普遍的で、利用しやすいものであり続けることを保証するものである」と、ポクルカル保健大臣は述べた。

【外政等】

●第16回ブレッド戦略フォーラムの開催【1日、2日】

9月1日及び2日、スロベニア外務省は、「欧州の将来」のテーマの下、第16回ブレッド戦略フォーラム(BSF)を開催した。同フォーラムは、アフガニスタン危機や潜在的な新たな移民の流入、気候変動の問題まで、様々な課題について多くの議論をもたらした。

BSFのメインセッションである「欧州の将来」をテーマとしたリーダーズパネルには、ヤンシャ首相及び5カ国の首脳(ギリシャ、クロアチア、セルビア、チェコ、ハンガリー)、ミシェル・欧州理事会議長、サッソーリ・欧州議会議長、パロリン・バチカン国務長官、シュイツァ欧州委員会副委員長が参加し、主に移民問題について議論した。

欧州防衛に関するパネルではアフガニスタンから教訓を学ぶ必要性が強調され、地中海諸国の外相は、2016年の難民危機を繰り返さぬよう求めた。

アドリア海での協力に関するパネルは、排他的経済水域とスロベニア、クロアチア、イタリアの港の協力を中心に展開した。また、2日間のイベントの機会を利用して多くの二国間会談が開催された。

●EU外相、タリバンとの関係を議論【2日、3日】

スロベニアは、EU議長国として、ブルド・ブリ・クラニにおいて、2日間のEU非公式外相会合を開催した。同会合では、特にアフガニスタンからの脱出を希望する人々に人道支援を提供する際の、タリバンとの関わり方について協議された。ボレルEU外務・安全保障政策上級代表は、アフガニスタン新政府への関与にあたり人権の尊重等を含む5つの基準(benchmark)を提示し、アフガニスタンの人々を支援するためにはアフガニスタン新政府に関与する必要があるが、これは国家承認を意味するものではないことを強調した。さらに、同上級代表は、8月末以降もEUとして退避支援を継続することを表明し、EUによる現地共同プレゼンスを設置する可能性と近隣諸国と協力する地域政治プラットフォームの立ち上げを示唆した。2日目の会合では、EU・中国関係、湾岸諸国に対するEUのアプローチ、およびインド太平洋地域とEUの協力にも焦点が当てられた。

●ITFによるボスニア支援【3日】

スロベニアの開発協力機関ITFが、ボスニアの首都サラエボにおける地雷撤去プロジェクトを完了した。同プロジェクトは米国の財政支援のもと、ITFとボスニアのNGO・地雷探知犬センター、マーシャル・レガシー研究所との協力によって実施されていた。最終的に、841の地雷と不発弾の破片を撤去した。

●ヤンシャ首相とボレル上級代表のワーキングディナー【5日】

4日、ヤンシャ首相は、スロベニア来訪中のボレルEU外務・安全保障政策上級代表を招き、ワーキングディナーを実施した。両者はアフガニスタン情勢及び移民問題について協議し、また10月にスロベニアがホストするEU・西バルカン首脳会合の準備の一環として西バルカン情勢について協議した。

●非公式EU農業大臣会合【7日】

非公式EU農業大臣会合がブルド・プリ・クラニユで開催された。各国の農業大臣は、都市部と農村部のより緊密な対話を求めた。ポドゴルシェク農林食糧大臣は、より良いインフラと技術により、対立が避けられるべきであるとし、ほぼ満場一致で、EUの共通農業政策だけでなく、パンデミック後の復興基金と結束基金も活用した農村開発への多面的でマルチ政策的なアプローチが必要であるとの見解に至ったと述べた。

●ヤンシャ首相のポーランド経済フォーラム出席【9日】

9日、ヤンシャ首相はポーランドで開催された第30回経済フォーラムに出席し、ポーランド、ウクライナの首相とともにコロナ後の復興についてのパネルに出席した。ヤンシャ首相は、同フォーラムにおいて、2020年の中東欧のマン・オブ・ザ・イヤー賞を受賞した。

●ヤンシャ首相、IMF専務理事及びOECD事務総長と会談【10日】

10日、ヤンシャ首相は、ブルド・プリ・クラニユにおいて、ゲオルギエバ・IMF専務理事とコーマン・OECD事務総長と会談し、新型コロナウイルスのパンデミックが世界経済と復興計画に与える影響について協議した。コーマン事務総長は、ロガル外相とも会談し、世界経済の回復について楽観的な見方を示し、デジタル経済への課税に関する国際基準を変更する必要性を指摘した。

●9・11犠牲者への追悼【11日】

ロガル外相は、ファラトコ米国臨時代理大使と共に、9・11同時多発テロの犠牲者を追悼した。ロガル外相は、スロベニアは引き続きテロの阻止に深くコミットするとし、集団的価値と集団安全保障のために米国および他の同盟国と緊密に協力し続けると述べた。米国大使館で別の式典を主催したファラトコ臨時は、米国は「20年前の最も困難な瞬間に私たちのそばに立ってくれた」スロベニアの同僚や友人に感謝していると述べた。

●アフガニスタンに30万ユーロを支援【13日】

ロガル外相は、アフガニスタンのための国際ドナー会議にオンライン出席し、人道的危機が悪化する中、アフガニスタンを支援するために30万ユーロを支援すると発表した。この資金はアフガニスタン人の避難民と近隣諸国の難民のための食糧、医療、援助に使われる。ロガル外相は、人道的危機の拡大とアフガニスタン情勢の影響を受けた人々について懸念を表明した。

●クロアチアとの国境におけるフェンスの追加計画【14日】

ホイス内相は、スロベニアは不法移民を取り締まるために、クロアチアとの国境に数十キロメートルの新しいフェンスを建てる計画だと述べた。新しいフェンスに関してまもなく合意に達し、建設工事は2、3週間以内に開始されるはずだとホイス内相は記者団に述べた。

●スロベニア・ハンガリー共同政府会合の開催【15日】

15日、スロベニア政府代表団は、当国ツェリエ市でハンガリーをパートナー国として開催された第53回国際見本市の開催に際してスロベニアを訪問したハンガリー政府代表団と会談した。スロベニアからは、ヤンシャ首相、ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣、トニン国防大臣、ヴルトヴェツ・インフラ大臣、ホイス内務大臣、クステツ教育・科学・スポーツ大臣、ヤルツ同省副大臣、ラシュチャン外務副大臣等が参加した。また、ハンガリーからは、オルバーン首相、ジョルト副首相、ピンテール内務大臣、ベンクー国防大臣、ペーテル外務貿易大臣、カーシュレル人材大臣が参加した。

同見本市の開会式後、両首相は二国間首脳会談を行い、両国間の協力分野とその拡大の可能性について協議した。また、代表団として両首相に同行した両国大臣がサイドラインで大臣会合を開催した。また、両国首脳、代表団が参加した共同政府会合が開催され、将来の二国間協力強化のために、覚書等の署名を行った。

●スロベニアの地中海クラブへの加盟【17日】

アテネにおいてEU地中海クラブ（これまでのMED7）サミットが開催され、スロベニア及びクロアチアを新規加盟国として迎えることが承認された。これによって加盟国は9か国となる。ヤンシャ首相は会議後、加盟はスロベニアにとって大きな名誉であると述べた。

●スロベニアと韓国の大統領が勲章を交換【21日】

パホル大統領と文在寅・韓国大統領は、20日に開催された国連総会のサイドラインで会談し、国家勲章

を交換した。文大統領は、スロベニアの主権、繁栄、名声、進歩を促進するための卓越した仕事と功績により、勲章を授与され、パホル大統領は、韓国の発展と安全を促進するための優れた功績により、ムグンファ大勲章を授与された。

会談の中で、パホル大統領は、今年予定されている在韓国スロベニア大使館開設を強調し、それに対して文大統領は、スロベニアの首都リュブリャナに韓国大使館を開設する可能性を真剣に検討すると述べるとともに、近く、リュブリャナに韓国の経済代表団が開設される予定であると述べた。

●パホル大統領の国連総会サイドラインにおける二国間会談【21日、24日】

21日、国連総会出席のためニューヨーク訪問中のパホル大統領は、エルドアン・トルコ大統領と会談を行った。両大統領はアフガン情勢、移民問題等について協議し、2011年の二国間戦略パートナーシップ条約調印以来特に二国間関係は良好、特に経済関係は順調であると評価した。パホル大統領は他にフォンセカ・カーボヴェルデ大統領、フック・ベトナム国家主席とも会談した。

24日、パホル大統領は、ニューヨークでグテーレス国連事務総長及びラブロフ・露外相と会談した。

パホル大統領とグテーレス事務総長は、気候変動や安全保障上の課題について協議した。パホル大統領は、来年、国連加盟30周年を迎えるスロベニアに、グテーレス事務総長を招待した。

ラブロフ外相との会談では、アフガニスタンやEU・ロシア関係について協議し、パホル大統領は、双方の信頼関係が欠如しているため、さらなる対話が必要だと述べた。また、国連総会での演説に先立ち、パホル大統領はシュタインマイヤー・ドイツ大統領、ミシェル欧州理事会議長と会談した。

●ロガル外相の国連総会サイドラインにおける二国間会談【22日】

21日、国連総会出席のためニューヨーク訪問中のロガル外相はアルメニア外相、モルドバ外相、パキスタン外相及び米国務副長官と二国間会談を行った。また、国際平和研究所がデンマークとの協力によって主催したアフガン情勢についてのラウンドテーブルにも出席した。

●ヤンシャ首相の人口統計サミット出席【23日】

ヤンシャ首相はブダペストで行われた人口統計サミットに出席した。人口問題はEUの最も重要な問題の1つであるため、本件イベントは「欧州の将来」にとって最も重要なイベントの1つと銘打って行われたもの。ヤンシャ首相は家族の重要性を強調し、EUは明確な家族政策を有するべきであると述べた。

●第76回国連総会におけるパホル大統領の演説【24日】

パホル大統領は、第76回国連総会の一般討論演説で、新型コロナウイルス感染症のパンデミック、気候変動、平和と安全に焦点を当てて演説を行った。また、同大統領は、グテーレス国連事務総長が共通の未来について幅広い議論を行うという意図を歓迎し、人々は「たとえ同意しない相手とであっても意味のある議論と対話を行う必要がある」と述べた。

●スロベニアとチェコの内相会談【24日】

ホイス内相は、ハマーチェク・チェコ内相とともにスロベニアのシェンゲン国境を視察し、共同でパトロールを行うスロベニアとチェコの警察官と会談した。両大臣は、EUへの突然の大量移民やEUの外部国境に対する圧力を防ぐ必要性について合意した。「これは、必要な準備をしていなければできないことであり、一方で、さらなる不法移民を助長するような発言には慎重でなければならない」とホイス内相は述べた。

●西バルカン議会議長会合の開催【26日、27日】

ゾルチッチ国民議会議長は、ブルド・プリ・クラニユにおいて、西バルカン諸国の議会議長会合を主催し、EUは同地域に対して、EU加盟が可能になりうる時期に関して明確なシグナルを与えるべきだと述べた。同議長は、プロセスは行き詰まっているだけでなく、間違った方向にさえ行きかけているとし、現在のEUからのシグナルは同地域に拡大プロセスへの信頼を促進しないとした。セルビア及びモンテネグロからの参加者も、EU拡大についての更なる明確性を求めた。

●ラトビア大統領のスロベニア訪問【28日】

パホル大統領は、スロベニア訪問中のレヴィッツ・ラトビア大統領と会談した。両大統領は、良好な二国間関係及び欧州の重要性について強調した。また、両大統領は、西バルカンの現状は、EU拡大プロセスの迅速化を必要としておりと考えており、パホル大統領は「それこそが西バルカン諸国の発展にとって良いだけでなく、安全保障・安定の観点からも望ましい。」と述べた。レヴィッツ大統領は、同地域の状況への懸念を表明し、EUは行動を起こす必要があるとした。

●EU軍事委員会、ポストイナで軍事力について協議【29日】

スロベニアはEU議長国として、ポストイナでEU軍事委員会(EUMC)のセッションを開催した。スロベニア陸軍参謀本部の発表によると、参加者はEUの軍事的な即応能力と、軍事的な観点から委員会を強化するための可能な解決策について議論した。同セッションでは、特にアフガニスタンの状況について議論された。

●EUの核不拡散・軍縮担当者の非公式会合の開催【29日】

スロベニアはEU議長国として、EUの核不拡散・軍縮担当者の非公式会合を開催した。同会合では、戦略的な問題や大量破壊兵器を監視する世界的な体制の課題や核兵器不拡散条約(NPT)締約国の第10回再検討会議の準備に焦点が当てられた。

●政府、リトアニアに40キロの国境フェンスを支援【29日】

政府は、ベラルーシとの国境に508キロの国境フェンスの設置を開始したリトアニアに、40キロの国境フェンスを支援することを決定した。政府広報室によると、ベラルーシからの不法移民問題に直面しているリトアニアから、国境に物理的な障害物を設置してほしいとの要請があったため、スロベニアがこれに応じた。

経済

【経済一般、指標・統計】

●失業者数の減少【3日】

スロベニアの8月の失業者数は69,292名と、減少傾向が継続し、新型コロナウイルス以前の2019年9月以降始めて7万人を下回った。失業者数は前年同月比で21.4%減、前月(7月)から1.9%減となった。最新の失業率は本年6月に算出された数字で、7.3%となっている。

●経済成長予測が大幅に上方修正【16日】

政府の経済予測機関であるマクロ経済分析開発研究所は、スロベニアの年間成長予測を、春の見通しから1.5ポイント高い6.1%に上方修正した。GDP成長率は2022年には4.7%、2023年には3.3%になると予測されている。

●復興強靱基金の一部を受領【17日】

欧州委員会はEUの復興強靱基金の一部としてスロベニアへの第1回目の支払いを行い、スロベニアが受領予定総額の13%に当たる2億3100万ユーロが支払われた。この資金は持続可能なモビリティ及びデジタルトランスフォーメーション関連のプロジェクトに使用される。

●各種価格の高騰【23日】

統計局の発表によれば、本年第2四半期の住居用不動産価格は第1四半期から4.5%値上がりとなり、この10年間で最も急激な高騰となった。

電気価格は本年初めから2倍近くに値上がりし、ガス価格は3倍となったことで、エネルギー消費型産業は困難を抱えており、産業界は政府に対応を求めた。料金高騰は各家庭の電気料金、ガス料金にも影響する見込みとされている。

また、政府はタバコ税に関する規定改定案を承認した。本年11月、来年4月と段階的に値上げとなり、タバコ1箱あたり4.6%高くなる予定。

●2020年の財政収入は2.3%減【26日】

6年連続で増加してきた国家が徴収した税金と社会からの貢献(social contributions)の総額は、昨年2.3%減の177億ユーロとなった。税収は7.2%減の97億ユーロ、社会貢献による収入は4.4%増の81億ユーロであったことが統計局の報告書で明らかになった。また、社会保険料を含めた税収のGDPに占める割合は20.6%で、これまでに最も低い割合となった。

●増え続ける地方自治体の負債【26日】

スロベニアの212の地方自治体とその公益事業の債務総額は、昨年さらに4,750万ユーロ増加し、9億7,120万ユーロとなり、GDPの2.1%を占めた。一人当たりの平均総負債額は、2019年の449ユーロから2020年には473ユーロに増加したことが、財務省がまとめた報告書で明らかになった。財務省は、ローンを活用して経済成長や雇用に貢献しているため、この数字は懸念材料ではないとしている。

●8月の失業率、4%を下回る【29日】

ILOによる調査によると、スロベニアの8月の失業率は3.9%となり、7月より0.1ポイント、前年同月より1.4ポイント低下した(統計局発表)。統計局では、15歳から74歳までの約4万人が8月に職を失ったと推定している。失業者のうち、女性は55%、男性は45%を占めている。これにより、女性の失業率は4.7%、男性は3.3%となっている。

【企業、産業の動向】

●スロベニアの観光業、2024年までに回復すると予想【14日】

ザイツ経済開発・技術省副大臣は、今年スロベニアは堅調な観光客数を記録しており、観光部門はおそらく2024年までに回復するとは予想されると述べた。また、アジアからの訪問者数が2023年までに戻る可能性は低いが、デジタル証明書により、国境を越える際の不確実性を排除するという点で、ヨーロッパへの観光客の旅行を容易にすると付け加えた。

●デジタル生活の質ランキング【20日】

IT企業「Surfshark」社による調査によれば、デジタル生活の質ランキングにおいてスロベニアは110ヶ国中36位であった。昨年度と同調査では85ヶ国中23位であった。インターネットアクセシビリティの部門では110ヶ国中22位と比較的上位であるが、インターネット接続の質の順位が低く、52位となっている。

●フライドバイ、リュブリャナードバイ間に就航【24日】

格安航空会社フライドバイは、リュブリャナとドバイを結ぶ定期便を就航させた。これは、リュブリャナ空港が10年かけて取り組んできたドバイとの直行便化の集大成となる。フライドバイは週3便を運航し、スロベニアとアラブ首長国連邦を結ぶ初の直行便を提供することになる。同社のCEOであるガイス氏は、「ドバイ万博が開催された今こそ、新しい路線を開設する良い機会だ」と述べた。

新型コロナウイルス関連情報

●9月30日時点におけるスロベニア国内の新型コロナウイルスの感染状況【30日】

9月30日時点において、スロベニア国内で新型コロナウイルスへの感染が確認されている人数は累計294,331名で、死者は計4,870名となっている。30日時点での地域別の累計感染者は以下となっている。

地域	感染者数
スロベニア中心部	74,094
ドレンスカ・ベラクライナ地方	22,866
サヴィンスカ地方	39,017
ポドラウスカ地方	44,700
ゴレンスカ地方	30,872
ポムルスカ地方	17,260
オバルノ・クラシュカ地方	14,860
ゴリシュカ地方	15,665
コロシュカ地方	10,522
プリモルスコ・ノトランスカ地方	7,274
ポサウスカ地方	11,225
ザサウスカ地方	7,823

●J&J社製コロナウイルス・ワクチンの使用を中止【29日】

ポクルカル保健大臣は、「Johnson & Johnson」社製のワクチンを接種した20歳の女性が、接種後2週間以内に死亡したことを受けて、同ワクチンの使用を停止することを発表した。この措置は、国立公衆衛生研究所の予防接種に関する特別諮問グループによって提案されたもので、女性の死亡に関するすべての状況が明らかになるまで、使用停止措置が取られることになる。諮問グループの責任者であるベオビッチ氏は、この死亡事故の調査には少なくとも1週間はかかるだろうと述べている。

社会・文化・スポーツ

●スロベニアのログリッチ選手、ブエルタレースで3度目の優勝【5日】

スロベニアのサイクリングスター、プリモシジュ・ログリッチ選手が、スペインで開催されたロードサイクリングレースのブエルタ・ア・エスパーニャで3年連続の総合優勝を飾った。ログリッチ選手は、東京五輪の自転車タイムトライアルで金メダルを獲得しており、3回連続でブエルタを制した史上3人目のライダーとなった。

●新たに千メートル以上の深さの洞窟が発見された【13日】

リュブリャナ洞窟探検協会は、カニン山脈の高地氷河カルスト地域の下にある深さ千メートルを超える新たな洞窟システムを発見した。新たに発見された洞窟は、世界で最も深い100の洞窟の1つであり、スロベニアにおいて10番目に深い。2007年以降探検が断念されていたが、照明技術の発展により、さらに奥に進むことが可能となった。今のところ全長2キロメートルが発見されている。

●アナ・ロシュ・シェフ、世界トップ10シェフにランクイン【16日】

ミシュランの星を獲得したHiša Frankoのシェフ、アナ・ロシュ氏が、2021年のベスト・シェフ・アワードで7位にランクされた。女性シェフとしては、最高ランクであった。そのほか、2018年からコバリドを拠点とするマーシャ・サロベク氏が、ベスト・シェフ・ペストリー賞2021を受賞した。

●ポトチャル選手、クライミング世界選手権で銀メダルを獲得【21日】

モスクワで開催されたIFSCクライミング世界選手権の男子リードで、スロベニアのルカ・ポトチャル選手が銀メダルを獲得。ポトチャル選手にとってはキャリア最高記録であり、スロベニアにとっては男子クライミング・リードにおける史上初のメダルとなった。

●ブレジツェ市、欧州スポーツ都市2022のタイトルを獲得【30日】

ブレジツェ市は、ヨーロッパのスポーツ都市連盟による、European City of Sportsの居住者が25,000人未満の自治体カテゴリーにおける認定を受けた。この認定を得ることで、国内外のスポーツ活動やスポーツツーリズムの推進を通じて、発展を促進することができると考えられている。ブレジツェ市は、自治体の予算の7%をスポーツ予算に充てており、これは、ヨーロッパの平均の2倍以上である。

東京2020パラリンピック大会・スロベニア結果

8月24日から9月5日まで開催された東京2020パラリンピック大会には、新型コロナウイルス感染症等の影響を受け、これまでよりも縮小されたチームとなりましたが、スロベニアから合計7名の選手が参加しました。

開会式では、パラリンピック大会3度目の出場となるアーチェリーのDejan Fabčič選手が旗手を務めました。これまでにパラリンピック大会で4つのメダルを獲得しているFranc Pinter選手は8度目の大会出場となりました。

本大会においてスロベニアは、これまでの大会でもすでに4つのメダルを獲得しているFranček Gorazd Tiršek選手が、8月30日に陸上自衛隊朝霞訓練場で行われた射撃(混合 10メートル エアライフル立射)において銀メダル、9月1日に開催された射撃(混合 10メートル エアライフル伏射)で銅メダルを獲得しました。Tiršek選手が獲得したメダルは、スロベニアのパラリンピアンにとって50番目のメダルとなりました。

全163カ国中、スロベニアのメダル順位は71位という結果になりました。スロベニアのパラリンピックチーム全成績は以下の表の通りです。

競技	種目	選手名	結果
アーチェリー	男子 個人リカーブ	Dejan Fabčič	2回戦敗退
自転車競技	男子 ロードレース	Anej Doplihar	9位
	男子 タイムトライアル	Anej Doplihar	13位
射撃	混合 10mエアライフル立射	Franček Gorazd Tiršek	銀メダル
	混合 10mエアライフル伏射	Franček Gorazd Tiršek	銅メダル
		Dejan Fabčič	42位
	男子 10m エアライフル伏射	Franc Pinter	10位
	混合 50m ライフル 伏射	Franček Gorazd Tiršek	24位
水泳	男子 100m背泳ぎ	Tim Žnidaršič Svenšek	予選敗退
	男子 50mバタフライ		予選敗退
卓球	男子 シングルス	Luka Trtnik	予選敗退
陸上	男子 円盤投げ	Henrik Plank	6位

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。(※インターネットで提出をされると、変更届・帰国届けもオンラインで手続きできるため、たいへん便利です。)

緊急事態発生時には、提出された在留届をもとに、大使館・総領事館が、安否確認・支援活動等を行います。

【外務省オンライン在留届】: <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>

●新型コロナウイルス: 引き続き最新情報を入手し、感染予防に努めてください。当館HPでは、新型コロナウイルスに関する国内及び出入国規制等についてまとめたものを公開していますのでそちらもご覧ください。なお、規制は突然変更となる場合がありますので、最新情報についてはスロベニア当局にご確認いただくようお願いいたします。

【当館まとめページ】https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00037.html

●政府のコロナ対策に反対するものと見られる抗議デモが、議会前、共和国広場を中心に散発的に行われており、警察が放水銃を使用して逮捕者がでるなどしています。

邦人の皆様におかれましては、報道等で最新の情報を入手するとともに、抗議デモ・集会等にはたとえ小規模のものであっても、近づかない等自らの安全を守る行動をとるようご注意願います。

【参考情報】

1. 外務省海外安全ホームページ

本サイトでは、各国・地域での新型コロナウイルスの発生状況、新型コロナウイルス(日本からの渡航者・日本人に対する各国・地域の入国制限措置及び入国・入域後の行動制限)等の情報を掲載しています。

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

2. たびレジ簡易登録

本サービスは、メールアドレスとメール配信を希望する国・地域を選択するだけで、当該在外公館から領事メールを受信することが出来ます。ぜひご活用下さい。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/simple/register>

3. スロベニア国立公衆衛生局は、国内状況や感染予防の方法等について公開しています。

<https://www.nijz.si>

(主にスロベニア語)

4. スロベニア政府が、新型コロナウイルスに関する特設サイトを開設しました。コロナウイルスに関連した保健省の特設電話番号はこちらに掲載されています。

<https://www.gov.si/en/topics/coronavirus-disease-covid-19/>

5. 新型コロナウイルス感染症に備えて ～一人ひとりができる対策を知っておこう～（首相官邸）

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html>

6. 新型コロナウイルス感染症に関する情報について（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

7. リュブリャナ空港ホームページ

<https://www.fraport-slovenija.si/en/Main>

8. スロベニア政府の下記のツイッターアカウント等で、随時情報発信が行われておりますので、こちらをご確認ください。

●政府（英語）：<https://twitter.com/govslovenia>

●政府（スロベニア語）：<https://twitter.com/vladars>

（英語版と若干内容が異なります。）

●外務省：<https://twitter.com/mzzrs>

（主にスロベニア語）

●保健省：<https://twitter.com/minzdravje>

（主にスロベニア語）

【広報文化班からのお知らせ】

●日本映画週間2021開催！

一年ぶりに日本映画週間が帰ってきます！日本映画 4 本の上映を開催いたします。国内 2 カ所での上映となります。

①日程：10 月 18 日～22 日（20 日を除く）

場所：スロベン・グラデツ市文化センター（Francetova cesta 5, 2380 Slovenj Gradec）

時間：18 日（未定）、19 日・21 日 19 時から、22 日 18 時から

②日程：10 月 25 日～30 日（28 日、29 日を除く）

場所：キノ・ベジグラッド Kino Bežigrad（Linhartova cesta 11, 1000 Ljubljana）

時間：17 時から（30 日のみ 15 時から）

上映予定作品：そらのレストラン、駅までの道をおしえて、初恋～お父さん、チビがいなくなりました～、八代健志監督ストップモーションアニメ 4 作品（ごん、ノーマン・ザ・スノーマン、ノーマン・ザ・スノーマン、眠らない月）

●最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Ambassy.of.Japan.in.Slovenia/>